

## 洞窟を抜ける秘境・

★猪名川水系一庫ダム大路次川インレット  
☆龍化隧道インレット→龍化溪谷

「うわぁっ！・・・洞窟やー！」

「ホンマや！・・・洞窟やー！」

「うわぁっ！・・・これくぐるんやー！」

「ホンマや！・・・トンネルやー！」

後部座席で興奮する小学校3年の私と年長組の弟をよそに、親父はゆっくりと岩を掘り貫いただけの短いトンネルを抜けた。

「・・・龍化隧道やて、いつ頃できたんやろ・・・すこいね・・・」と助手席のお袋がつぶやいた。

「さあゝなあゝ・・・いつやろ？・・・しかしこの道は細いし曲がりくねってるからカンナなあゝ」と親父がぼやく・・・

もう40年近く前の・・・とある日曜日・・・

待望のマイカー「スバル360」が来て嬉しくてたまらず、「ドライブに行こか？・・・」と溪谷沿いの側道を対向車が来ないことを祈りながら上がって行った。

今は「ドライブ」と言う言葉も聞けないが、この頃はもっとも興奮する「お出かけ」だった。

この日はどこを目指していたのかも記憶にないが、一家4人では車が非力で峠道を登り切れず、引き返して来たのを覚えている。



私の釣りは小学校2年の時に親父に近所の野池にフナ釣りに連れて行ってもらったのが最初である。それから時々フナ釣りには連れて行ってもらった。

当然、車が来るとその範囲は一気に広がりを増した。

一時期、毎週日曜の朝は須磨の舞子で投げ釣りにハマった事もあった。

当然、川にも行く様になり、釣り場はもっぱら一庫出合橋から洞窟のある秘境辺りまで、景観が美しい大路次川だった。

フナ釣りの棒浮きとは違い、唐辛子浮きで歩きながら竿を出す川釣りは楽しく、直ぐに一番

のお気に入りになった。

今はすっかりダムに沈み記憶の片隅にしか残っていないが、今でもこの溪谷は心の奥底で美しく流れている。

記憶が正しければ洞窟と呼ばれた「龍化隧道」ともうひとつ石畳のトンネル（円山隧道？）

があったと思う。

私にとってこの辺りは川ではなく溪だった。

ある程度釣りがわかり始めると、もともとゴルフが趣味で釣りは適度に知っている程度の親父の手解きでは満足できず、少年向けの釣り仕掛け集を買ってきた。この手の本はわかりやすい様に魚の名前であいうえお順に並んでいる。

一番最初に登場する魚は「岩魚」だった。そのページには岩魚とヤマメが描いてあり、脈釣りの仕掛けが紹介されていた。

オイカワが住む中流域には生息できずカラムツが生息する流域よりも更に上流に生息し、溪流魚と呼ばれている。宝石の様に美しく中でも岩魚は幻の魚・・・と書いてあった。

咄嗟に大路次川が脳裏を過る。

「あの洞窟を抜けてどんどん上流に行ったらお



るんとちゃうか?・・・ドライブ行っただき途中で  
で川が道から分かれたけど・・・あれどんどん言  
ったらおるんとちゃうか?」

いつかきつと・・・と言う少年の想いはダム  
に沈んだ大路次川とともにいつしかどこかに消  
えうせていた。

### ■猪名川一庫ダム龍化隧道インレットのご案内

あれだけ秘境を感じていた旧龍化隧道は今で  
は夏の時期にだけ湖底から姿を現す、まさに「洞  
窟」になってしまい、真夏のドピーカンで唯一  
釣りが成立するケタバスの近場のポイントとし  
て重宝している。

ダムが出来て側道も高く上がり、直ぐ上にコ  
ンクリートの新龍化隧道があり、少し上手に吊  
橋もある。

今でもこの辺りは昔の面影が残る溪谷美を残  
しており、十年程前はよく子供を連れてデイキ  
ャンプに行った。子供とカリーを作った後は水  
辺で遊ぶ子供を見ながらフライロッドを振って  
いた。

ある年の五月の連休にいつものようにデイキ  
ャンプに行くと、九州から来た男がタープを張  
ってキャンプをしていた。

(なんも・・・九州からわざわざやってきてキ

ャンプするところやないでえ〜)と思ったが、  
テーブルにはsageのロッドが立てかけて  
ある。私のフライロッドを見ると・・・

「この辺りあまごは釣れます?」

「いやあこの川はおりまへんわ!・・・やるん  
やったらダムの流れ込みでバスですわ・・・ちょ  
っと早いけど・・・」

「この辺り・・・ガバ釣れそうに見えるやないで  
すか?・・・おらんとですか?」・・・と結構、雰  
囲気が気に入ってるらしい。

「雰囲気だけはエエけどね・・・渓流魚はおりま  
へん!」

そのぐらい、渓流魚がいなくても渓流釣りの  
雰囲気味わえる溪谷である。

ケタバスは真夏にダムから遡上した魚がイン  
レットに集まり丁度洞窟の前から少し上流の吊  
橋までがポイントになる。

ルアーではスプーンやスピナーで簡単に釣れ  
たが、フライで釣ると、釣れることは釣れても  
ルアーと違い、今ひとつ決め手がなかった。

結局、ケタバスもハス(「オイカワ」のデッ  
カイのと思えばわかりやすい。

ダムにいる時はストリーマーが有効だが、川  
に遡ると虫も食っている。釣り方は渓魚と道具  
立ては全く同じでよいが、この魚は毛鉤を流し  
ても余り効果がない、大半は着水と同時にヒッ  
トするオイカワそのものである。

これがわかると結構簡単に釣れまくってくれ、  
サイズもそこそこで真夏のドピーカンでも全く  
問題なく、2時間程の片手間の釣りにはもって  
こいである。

吊橋より上流はよくデイキャンプをした所で  
溪相もすばらしい。

聞くとここによると、「ここが昨年から「一庫  
大路次川自然渓流釣場」としてあまご虹鱒を  
放流する管理釣り場となったらしい。

オフシーズンとは言え、あの洞窟を抜ける秘  
境であまごが釣れる・・・大路次川龍化溪谷・  
近々、訪れたいと思っている。

2006年 12月

